

## 第1回富山県教育大綱(仮称)策定有識者委員会議事録(概要)

- 1 日時 平成27年6月1日(月) 13:00 ~ 14:35
- 2 場所 富山県民会館401号室
- 3 出席委員 別紙委員名簿記載のとおり
- 4 説明出席者 富山県知事 石井 隆一  
(事務局) 知事政策局長 山崎 康至  
教育長 渋谷 克人  
教育・スポーツ政策監 荒井 克博  
教育長職務代理者 山崎 弘一  
理事・知事政策局次長 磯部 賢  
教育次長 伍嶋 二美男  
教育次長 川腰 善一  
参事・教育企画課長 山下 康二  
知事政策局課長 荻布 佳子 他 関係課職員等数名
- 5 議事
  - (1) 有識者委員会の設置目的について
  - (2) 「大綱」の策定について
  - (3) 「大綱」策定の枠組みの基本的な考え方について
  - (4) 「大綱」における基本方針、現状と課題及び取組み方向について
- 6 会議の要旨

司会が開会を宣し、知事より開会の挨拶。

引き続き、司会より、設置要綱の規定に基づき委員長の推薦を求めたところ、遠藤委員にお願いしてはどうかという発言があり、遠藤委員が委員長に就任。以後の進行については遠藤委員長が行った。

委員長より、設置要綱の規定に基づき、永原委員及び耳塚委員を副委員長に指名後、議事に入った。

  - (1) 議事事項(1) 有識者委員会の設置目的について、議事事項(2) 「大綱」の策定について及び議事事項(3) 「大綱」策定の枠組みの基本的な考え方について  
○以上の議事事項について、事務局より、資料1から資料3に基づき説明  
○委員長より、各委員に対し、意見・質問等の有無を尋ねたところ、特段の発言はなかったため、事務局に対し、引き続き資料4を説明するよう要請

(2) 議事事項(4) 「大綱」における基本方針、現状と課題及び取組み方向について

○事務局より、資料4に基づき説明

○委員長より、総合計画、大綱、教育振興基本計画の位置付けについて確認あり。

→ 事務局回答：今後策定する大綱の内容によっては、教育振興基本計画の見直しの必要性も出てくる。体系的には、まず総合計画があり、そして大綱、その下に教育振興基本計画となる。

○委員長より、各委員に対し、意見・質問等を求めたところ、次のとおり発言があった。

<委員等の発言(要旨)>

(委員)・少子化の時代にあつて、幼児教育は福祉の観点から捉えられがちだが、幼児教育は将来の富山県に対する投資である。幼児教育をしっかりと行うことにより、将来的には地域社会への貢献、納税者としての自覚として返ってくる。

(委員)・企業経営でいえば企業理念というものが必要であつて、何をやるにしても行き着くところはその理念の実現のためということになる。教育大綱でいう「理念」であれば、最終的にどのような人づくりを目指すのかということになると思うので、そういった点を明らかにすることが必要。

(委員)・学校でどれだけスマホの自粛をいっても、家に帰れば親が子の横でスマホを触っているのが現状。ある意味、これは道徳性というか、日本人が戦前から守ってきた精神性が失われてきて、その歪が今の教育に反映されていると思うので、そういったことをカバーできる教育制度になればと思う。

(委員)・社会全体の共通の価値観、一般常識というものが崩れてきているような気がする。堂々とまっすぐな道を歩く、潔さとか、羞恥心、そういう一般的な常識をどう社会全体の規範としていくかが大事である。

・グローバル化が進むことは避けられず、幼保から大学に至るまで、それぞれの年代に応じた手法でしっかりと対応していくことが必要。

(遠藤委員長)

・これまでの皆さんの意見の共通点として、「理念」、どういった人づくりを目指すのかということ、幼少時から精神性や道徳性といった基本的なことをおろそかにしないこと、いわば人間力をどうやってつけていくかが課題ということになる。

- (委員)・一番大切なのは、家庭環境にある。幼少のころの躰、自我が芽生える前の段階での教育が大事であり、これは家庭の問題。親がしっかりとしたポリシーをもって育てる気概があれば、子どもは素直に育つ。
- (委員)・今、富山県は人材輩出県となっている。一旦、県外に出ると帰ってこない。富山の将来を担ってくれる人材はどこに行くのか、「世界に羽ばたく」人材、国際化の時代にあっては必要だが、本県のあらゆる分野で人材を育成することも必要であり、全国で、世界で活躍する人材も育成しなければならない。行く先がたくさんある、そういった県になるよう、教育体系を考えてもらいたい。
- (委員)・資料 4-5 に生涯学習の機会の提供、地域に還元するというところで、学習成果の還元という記載がある。地域の中で活動するということが、それに加えて、生涯学習は一人ひとりが学んで、人生豊かに、いきいきと生きるということがポイントである。生涯学習はすべての世代が対象であるが、特にシニア世代は学習成果をどう活かしていくかによって、次の学びのステップ、流れになっていく。よって還元だけでなく、活用という視野が重要。
- (委員)・核家族化が進み、町に工場などもなくなり、社会が見えにくくなっていく中で育った若者は、社会対応能力がない。異性に対してどうアプローチしていいかわからないので、そういう場を提供してもうまくいかない。また、子どもができてどう育てていいかわからない。核家族化がもたらした影響は大きいと感じている。社会がわからないまま、成長した人に対する対応が必要だと思う。
- (委員)・大学で地域に貢献する人材を育成しているが、できれば富山に定着してほしい。我々は富山の魅力を教えるが、例えば、将来は富山のために、富山で働くためにこの大学に入るんだという子は、やはり目的をもってから伸びる。そういう点からすると家庭教育とか、小・中・高校での教育でも、全体として取り組んでいただくと、我々の力ももっと有効的に活かせるのではないかと思っている。
- (委員)・現代社会にないものは、地域で子どもを育てる環境が少ないということにある。土曜授業にまで踏み込めなくても、何か地域と関わることであればいいと思う。1週間の中で、子どもたちに授業以外の、心の、道徳の部分を実践的に教えるときが必要ではないかと思う。

(遠藤委員長)

- ・資料 4-1 にあるとおり、家庭と地域とを結び付けてどう子どもを育てるかということが重点的な課題であるということは、皆さん共通の意見であろうかと思う。

- (委員)・今、学校と家庭、地域で取り組むということについては、地域での人づくりが難しい時代になった。これをどうするか、「親学び」も我々の活動に取り入れているが、実際に聞いていただきたい親の方がなかなか出てこない。やはり、すべての大人が関わって、進めていければと考えている。
- (委員)・資料4-6のふるさと教育について、子ども、あるいは親子での自然体験事業を行っている。これからは、連合会あるいは各公民館それぞれが自立しながら、積極的にやっていく必要があると思っている。
- (委員)・「自治会だより」に今年は「郷土の歴史と人」というテーマで執筆しているが、このようなことがふるさとを正しく理解していく、一つの手助けになるのではないかと思っている。

(遠藤委員長)

- ・富山県がもっている歴史的財産、文化を子どもたちが肌で感じるのは有意義なことであり、そういう取組みを進めていってもらいたい。
- (委員)・親としては、子どもの個性を生かせるような教育、また、そうはいつでもたくましく生き抜く力も持つ子、そういう反面の理想を持っている。学校では先生が非常に多忙で、きめ細かな教育がし難いのではないかと思っている。少人数の教育が、学力、スポーツなどにより影響を与えることは分かる。また、大人数でやった方がよいこともあるので、どちらにも対応できるようなシステムになればいいと思っている。
- (委員)・現行の「教育振興基本計画」だが、策定から2、3年経っており、その理念である「富山から世界へ羽ばたき」という部分だが、富山県で活躍できるようなことに徐々に軸足が移ってきていると思う。大綱とねじれが生じると思うので、合わせてこの計画の理念も見直せばいいと思う。
- (委員)・いわゆる情操教育というのは、昔は否応なくやらされていたような気がするが、なにかしらの情操教育があって、感じ、学び、人間として成長する。こんなことをやってもしょうがないだろうというもの、そういった時間の創設が大事じゃないかと思う。
- (委員)・将来を見据えた教育という点では、やはり語学力を備えた人材の育成がますます必要になってくると思う。
- (委員)・これからの時代は、自分で学ぶということが大事であり、今後、子どもたちが学ばなければならないことは増えていく。学校というのはある意味、教育の一部であって、ますます自分で学ぶという姿勢が大事になっていくと感じている。

(遠藤委員長)

- ・家庭、地域、学校のすべてにおいて、新しい時代に対応した子どもたちを育てていかなければならない、というところの、大綱の重要性ということになるかと思う。

(知 事)

- ・どういった人材の育成を目指すのかという、コンセプトを明確にしておかなければというご意見があったが、まさに基本となるところである。しっかり検討、議論していきたい。
- ・家庭の教育力が大事だという意見が複数出され、その関連で三世代同居の話も出たが、社会全体が高度化・複雑化しているので、学校教育だけでなく、家庭、地域の教育力、場合によっては大人自身ということで企業ということもあると思うが、それぞれの分野で連携しながら、人づくりを進めていかなければならない。
- ・各種団体が教育・子育てに関する事業を実施しても、参加される方はよく理解されている方で、一方、ぜひ参加してもらいたい人がなかなか参加されない。この問題をどう克服していくかが課題。
- ・「世界に羽ばたく」だけでなく、農・工・商、あらゆる分野において、地域やあるいは県、全国で、しっかり地域に根を下ろして、活躍する人も大事だという意見については、そのとおりだと思う。
- ・次回の委員会では、本日のご意見を参考にし、整理した資料をお示しするので、改めてご意見をいただきたい。

## 7 閉会

14時35分、議事が終了したので、委員長が閉会を宣した。